

令和元年度 七合小学校 学校評価

○那須烏山市共通重点目標 ◇学校の重点事項

みんなが笑顔で自慢できる学校を目指すために！

【A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：課題がある】

項目		重点目標・具体策 (○:市の重点目標◇:本校の重点目標)	評価	取組状況・成果・課題	改善案	学校関係者の意見
学校運営・ 教育課程	2 (1) (ii)	○「生きる力」を育む特色ある教育課程の編成、実施に努める。 ・日課表の工夫 ・評価・反省・アンケートの実施 ○特別的教育課程 (英語コミュニケーション科) ・英語コミュニケーション科の実施により豊かなコミュニケーション能力を養う。 特色ある学校づくり	A	・特別日課も休み時間を確保しながら工夫されている。 ・行事の計画の前に前年の反省を踏まえて計画をしたり、実施後に次年度に向けた反省を行ったりしている。 ・子どもたちにとってコミュニケーション能力は必要な力の一つであり、楽しみながら取り組む様子が見られている。 ・英語専科とALTによる授業は、本市の授業展開構想にも合致し、よかった。	・行事等の反省を次年度の行事に確実に反映させるシステムを構築する必要がある。	・いろいろな英語のゲームを通して英単語やリスムに楽しく親しむことができていと思う。また、クイズやハロウィーン等、外国の文化に興味をもたせる工夫もあり子どもが楽しみにしている。
		◇努力点・具体策の共通理解を図り、目標達成に向けて組織的に取り組む。 ・努力点・具体策の明確化 ・学級担任会、学級支援委員会の活用 ・週教育計画の活用	A	・学担会で確認できる分、職員会議が効率的に運営できた。 ・曖昧になりそうなことを学担会で確認でき学年間の共通理解ができている。	・確認事項は各学級で確実に行わせる工夫が必要である。	
		○働き方改革を推進し、持続性のある業務改善を図る。 ・業務の軽減、精選 ・学校行事の見直し ・勤務時間の意識改革	B	・業務の精選や意識改革など、いくつか軽減できているものもあるので進んでいるが、まだまだ精選できるものがある。 ・学校行事の見直しについては計画が進んでいる。	・自分の校務分掌から見直して、前例にならず、思い付いたときに改善していく。	・働き方改革については、自分の職場でも進められているが、時短になっても作業内容が減らなければ時短も無理で負担感となることがある。無駄なことを省き、業務の効率を高めていければよい。
学習指導	2 (2) (5) (7) (ii)	○知的学力を保障し、学び意欲を引き出し、コミュニケーション能力を育む確かな指導力に裏付けられた質の高い授業の展開に努める。 ・ねらいの提示と振り返りの工夫 ・学習形態の工夫 ・ICT機器活用の工夫 信頼される学校づくり	A	・振り返りの時間確保のため、教材研究や板書計画を立てることになり、先を見通した授業が行える。 ・共同訪問やスーパーティーチャー研修等で、学習形態や振り返りの内容等、確認する機会をもて、振り返りの質がよくなった。	・主体的・対話的で深い学びについて、実践的な研修を行う。	・100マス計算を以前やっていたが、力がついたように思う。復活させられないか。
		◇基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力を高める授業の展開を図る。 ・意欲的に表現活動に取り組む工夫 ・学校課題に重点をおいた授業の展開の工夫 ・ノート記述・読書・漢字・計算等 ・家庭学習の習慣化	B	・読書が1学期よりできるようになってきた。しかし、マイバックの中に、いつでも本が読めるよう入れておくことができていない児童もいるので、習慣化するよう指導する。 ・宿題は必ずやってきている。その他に自主学習に取り組む児童も多くなってきた。 ・プログラミング教育など、他の学校に先駆けて職員間で共通理解が図れている。	・年間を通して職員による読み聞かせを、月に一回程度実施する。	・家庭学習の習慣化が難しいというところだが、自主学習や読書など、推奨項目として入れてはどうか。

項目		重点目標・具体策 (○:市の重点目標◇:本校の重点目標)	評価	取組状況・成果・課題	改善案	学校関係者の意見
児童生徒指導	2 (3) (4)	○学級を核とした、相互理解に基づく望ましい集団づくりに努める。(ABC/R運動の推進) ・学級に向かう集団づくり ・子どもが意欲的に取り組む授業づくり 活力ある学校づくり	B	・あいさつはもう少し指導が必要だと思う。特に朝は、声をかけても返事の声が小さいことがある。 ・立腰については、時々声をかけ、意識付けしている。 ・「七合小の自慢」は、高学年の児童も意識しているようで、効果的だと思う。	・「七合小の自慢」をもっと活性化させる工夫が必要である。 ・学業指導の充実をさらに図る必要がある。	・こちらがやれ・・・ということではなく、できているのでさらに上を目指す指導がよい。
		◇基本的な生活習慣の定着を図る。 ・児童指導関係打合せの活用 ・「あのね週間」等を活用した教育相談の充実 ・関係機関との連携 ・規範意識の向上 ・問題行動等の未然防止・早期発見・早期対応	B	・下校時の手荷物については改善された。 ・児童指導に関しては、ケース会議等で組織的な対応ができている。	・全職員で共通理解のもと、指導の徹底が必要である。	・帰りの時間の準備は十分にあるのだろうか。10分では短いのではないかな。
特別支援教育	2 (6)	○関係諸機関と適切な連携を図った、児童生徒一人一人に応じた指導に努める。 ・学級支援員との協力 ・関係機関との連携	B	・個別の応援計画や指導計画を作成し、特性に合った指導を工夫している。 ・すこやか推進室やレインボーハウス、こども課、スクールカウンセラー等と連携しながら取り組めた。	・職員間の共通理解を図り、見通しをもった支援ができるように、関係機関との連携をさらに強化させる。	
		◇個別の応援計画を作成し保護者と連携した指導に努める。 ・個別の応援計画を作成(数名) ・保護者との密な連携	A	・2学期はじめと学期末に報告し合い、共通理解を図った。めあてや手立てを意識して指導に当たっていききたい。 ・学期に一回報告を行い、個別の応援計画の共通理解を図ることができた。	・年度末には、評価を行い、次年度の引き継ぎに生かしていく。	
保健安全管理	2 (8)	○心身ともに健康で明るく安全な生活を送るための基礎が培われるよう、健康教育の充実に努める。 ・「早寝、早起、朝ごはん」運動の推進 ・8の日登校指導、下校指導の徹底 ・関係機関との連携	B	・無言清掃を意識することができた。反省の中で児童が振り返りをしているのがよい。まだ個人差があるので、今後も継続指導していきたい。	・完全実施に向けて、継続的な取組をしていく。	・無言清掃の目的を伝えることで自分のこととしての意識付けになる。
		◇教科体育の指導の工夫や外遊びを奨励する。 ・教科体育の授業の充実 ・なかよしタイムの活用	A	・体育主任から出された体力向上補助運動に何度か取り組み、継続して実施したりその他の様々な動きを教科体育の時間に取り入れ、授業の充実を図った。 ・なかよしタイム等で、体育委員会が考えた瞬発力・俊敏性を高める遊びを取り入れた。	・体育の準備運動でも取り入れていると思うが、日常的に(休み時間等)体力を高めながら楽しめる遊びなどを児童に紹介する。	
地域との連携	2 (5) (9)	○地域連携教員を要として、地域の特性を生かした教育活動を展開し、地域に根ざした特色ある学校づくりに努める。 ・地域人材の活用 ・生活科や社会科における地域学習 地域とともにある学校学校づくり	B	・マラソン大会では、児童の安全確保のために保護者からの協力を得た。他の行事でも協力を得られるとよい。 ・地域連携の一覧はできた。	・感謝の気持ちを伝える場については、児童会が中心となり早めに実施する。	
		◇学校からの情報発信と情報の収集 ・学校だより、学校ホームページの活用 ・保護者、「青少年を育てる会」との連携	B	・学校だよりを全世帯に回覧したり、ホームページを活用したりして、積極的に情報発信に努めている。	・さらに情報発信に努め、積極的に学校情報を発信する。	・ホームページの更新等、宿泊学習での写真のアップが早く、よかった。